

| 項目 | 内容 |
|----------|--|
| 名称 | カシュー、カシューナットノキ、マガタマノキ [英]Cashew [学名]Anacardium occidentale L. |
| 概要 | カシューは、熱帯アメリカ原産の常緑樹であり、インドや東アフリカなどの熱帯地域で広く栽培されている。花の柄の部分が大きく肥大し、長さ5～6 cmの洋ナシ形となって黄色に熟す。この部分は「カシューアップル」と呼ばれ、生食またはジャムやジュースにする。肥大した柄の先端に本来の果実がつき、長さ2～3 cmのまが玉状になる。中の堅果をカシューナッツと呼ぶ。 |
| 法規・制度 | <p>■ 食薬区分</p> <p>「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」にも該当しない。</p> <p>■ 食品添加物</p> <ul style="list-style-type: none">・天然香料基原物質リスト カシューナッツが記載されている。 <p>■ 海外情報</p> <ul style="list-style-type: none">・堅果：米国では、GRASに該当する。 |
| 成分の特性・品質 | |
| 主な成分・性質 | <ul style="list-style-type: none">・堅果は約45%の脂質、約20%のタンパク質を含む (33)。・果皮にはアルキルフェノール、アナカルジン酸が含まれる (101)。 |
| 分析法 | <ul style="list-style-type: none">・果皮に含まれるアルキルフェノールを薄層クロマトグラフィー (TLC) 法、ガスクロマトグラフィー (GC-MS) 法により分析、トコフェノールをHPLC法を用いて分析している (PMID:20961547)。 |

有効性

| | |
|----------|--|
| 循環器・呼吸器 | RCT ・メタボリックシンドロームと診断された62名 (試験群21名、平均45.7歳、南アフリカ) を対象とした無作為化比較試験において、試験食とともに63~108 g/日の無塩カシューナッツを8週間摂取させたところ、血圧反射機能 (Baroreflex sensitivity) の改善が認められた (PMID:16733237) が、血液凝固因子 (フィブリノーゲン、PAI-1など) に影響は認められなかった (PMID:16093734)。 |
| 消化系・肝臓 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 糖尿病・内分泌 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| ヒトでの評価 | |
| 生殖・泌尿器 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 脳・神経・感覚器 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 免疫・がん・炎症 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 骨・筋肉 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 発育・成長 | 調べた文献の中に見当たらない。 |
| 肥満 | RCT ・メタボリックシンドロームと診断された64名 (平均45±10歳、試験群21名、南アフリカ) を対象とした無作為化比較試験において、試験食とともに63~108 g/日の無塩カシューナッツを8週間摂取させたところ、体重、血中脂質 (TC、HDL-C、LDL-C、TG)、炎症性マーカー (CRP)、フルクトサミン、尿酸値、血圧に影響は認められなかった (PMID:17381974)。 |
| その他 | 調べた文献の中に見当たらない。 |

参考文献

- (33) 世界薬用植物百科事典 誠文堂新光社 A.シエヴァリエ
(35) 新分類 牧野日本植物図鑑 北隆館
(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)
(101) PDR for Herbal Medicines Fourth Edition, Thomson.
[\(102\) アレルギー物質を含む加工食品の表示ハンドブック](#)
(2004068149) 日本皮膚科学会雑誌. 2003;113(9):1462.
(2005167154) 日本皮膚科学会雑誌. 2005;115(4):614.
(2006118181) 日本ラテックスアレルギー研究会会誌. 2005;9(1):80-1.
(2006072715) 日本皮膚アレルギー学会雑誌. 2005;13(3):148-51.
(2006028326) 日本小児アレルギー学会誌. 2005;19(4):684.
(2007298963) アレルギー. 2007;56(3-4):365.
(2007181058) 日本皮膚科学会雑誌. 2007;117(3):307.
(2008087826) J Environ Dermatol Cutan Allergol. 2007;1(Suppl.1):134.
(2008296292) 日本小児科学会雑誌. 2008;112(5):902.
(2009063360) J Environ Dermatol Cutan Allergol. 2008;2(4):340.
(2012034224) 日本小児アレルギー学会誌. 2011;25(3):542.
(2004183722) 日本皮膚科学会雑誌. 2004;114(2):206-7.
[\(PMID:20961547\) J Chromatogr A. 2010 Nov 19;1217\(47\):7411-7.](#)
[\(PMID:16733237\) Am J Hypertens. 2006 Jun;19\(6\):629-36.](#)
[\(PMID:16093734\) Blood Coagul Fibrinolysis. 2005 Sep;16\(6\):429-37.](#)
[\(PMID:17381974\) Br J Nutr. 2007 Jun;97\(6\):1144-53.](#)
[\(PMID:12602679\) Ann Allergy Asthma Immunol. 2003 Feb;90\(2\):271-2.](#)
[\(PMID:18566551\) J Forensic Sci. 1991 May;36\(3\):930-5.](#)
[\(PMID:16177166\) Arch Dis Child. 2005 Oct;90\(10\):1084-5.](#)
[\(PMID:17620069\) Allergy. 2007 Aug;62\(8\):913-6.](#)
[\(PMID:17201234\) Ann Allergy Asthma Immunol. 2006 Dec;97\(6\):759-60.](#)
[\(PMID:10485399\) Allergy. 1999 Aug;54\(8\):895-7.](#)
[\(PMID:21735238\) J Nat Med. 2012 Jan;66\(1\):133-9.](#)
[\(PMID:24826011\) J Basic Clin Pharm. 2011 Jun;2\(3\):125-7.](#)
[\(PMID:27807585\) ACG Case Rep J. 2016 Sep 28;3\(4\):e133.](#)
[\(PMID:27956392\) CMAJ. 2017 Mar 13;189\(10\):E405-E408.](#)